

# 平成22年8月 東京地区百貨店売上高概況

平成22年9月17日

## I. 概況

1. 売上高総額	1,033億円余
2. 前年同月比	-3.4% (30か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-4.4%(87.5%) : 非店頭+3.9%(12.5%) ( )内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	14社 27店 (平成22年7月対比±0店)
5. 総店舗面積	930,453㎡ (前年同月比:-1.8%)
6. 総従業員数	20,954人 (前年同月比:0.0%)
7. 3か月移動平均値	1-3月 -6.3%、2-4月 -5.4%、3-5月 -4.0%、 4-6月 -4.1%、5-7月 -3.0%、6-8月 -3.5%

【参考】平成21年8月の売上高増減率は-10.3% (店舗数調整後)

### 【8月売上の特徴】

- (1) 都内各店の入店客数は、過半の店で前年をクリアし賑わいを見せた。この背景には、夏休み期間中の子供向けイベントや趣向を凝らした文化催事など、各店例年以上に集客施策の展開を強化したことがある。
- (2) 東京地区でも全国同様に盛夏商材の活況が売上を下支えする傾向を見せたが、セール比率の上昇によって客単価が下がる結果となり、入店客数は増加しているものの売上総額では前年実績に届かなかった。
- (3) 売上好調アイテムとしては、雑貨ではUV化粧品、日傘、帽子、サングラス、婦人衣料では、カットソー、ブラウス、ワンピースなどがあるほか、水着や浴衣もよく動いた。
- (4) 8月の特徴では、店頭売上が減少した一方で、外商や店外催事などが健闘したことで、非店頭売上が4%近い伸びを示している。
- (5) 屋上ビアガーデンは、猛暑効果で昨年以上に活況であった。

### 【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見ると傾向値/前年同月比)
  - ①増加した: 10店、②変化なし: 3店、③減少した: 6店、④不明: 3店
- (3) 8月歳時記 (旧暦お盆、夏休み、夏祭り) の売上 (同上)
  - ①増加した: 1店、②変化なし: 8店、③減少した: 4店、④不明: 9店
- (4) 翌月売上見通し (回答店舗数で見ると傾向値)
  - ①増加する: 4店、②変化なし: 11店、③減少する: 4店、④不明: 3店

## 東京地区百貨店 売上高速報 2010年08月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
<b>総 額</b>	<b>103,394,574</b>	<b>100.0</b>	<b>-3.4</b>
紳士服・洋品	6,133,957	5.9	-3.8
婦人服・洋品	18,715,271	18.1	-8.4
子供服・洋品	1,501,523	1.5	-6.4
その他衣料品	2,346,046	2.3	-16.8
<b>衣 料 品</b>	<b>28,696,797</b>	<b>27.8</b>	<b>-8.1</b>
身のまわり品	14,292,173	13.8	-3.9
化粧品	6,332,162	6.1	-1.7
美術・宝飾・貴金属	5,780,245	5.6	-10.1
その他雑貨	6,225,183	6.0	-4.4
<b>雑 貨</b>	<b>18,337,590</b>	<b>17.7</b>	<b>-5.4</b>
家 具	2,039,545	2.0	-5.5
家 電	426,649	0.4	-31.4
その他家庭用品	3,863,872	3.7	7.7
<b>家 庭 用 品</b>	<b>6,330,066</b>	<b>6.1</b>	<b>-0.6</b>
生 鮮 食 品	4,234,517	4.1	-2.3
菓 子	7,833,992	7.6	-2.9
惣 菜	5,822,076	5.6	-2.9
その他食料品	8,413,694	8.1	0.6
<b>食 料 品</b>	<b>26,304,279</b>	<b>25.4</b>	<b>-1.7</b>
食 堂 喫 茶	3,397,262	3.3	-10.1
サ ー ビ ス	2,417,486	2.3	29.1
そ の 他	3,618,921	3.5	29.5

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。  
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商品券	5,089,341 千円	52.2
従業員数	20,954 人	0.0
店舗面積	930,453 m <sup>2</sup>	-1.8

営業日数	31.0 日	前年	31.0 日
------	--------	----	--------

## II. 商品別の動き

主要5品目では、6か月ぶりに全品目がマイナスとなった。しかし、5品目の中で雑貨が先月より改善する動きとなった。また、その他家庭用品とその他食料品が2か月連続のプラスとなり、その他雑貨、家具、惣菜が先月より改善した。

### 【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
<b>総額</b>	-3.4	—	30か月連続マイナス
紳士服・洋品	-3.8	-0.2	2か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-8.4	-1.6	25か月連続マイナス
子供服・洋品	-6.4	-0.1	3か月連続マイナス
その他衣料品	-16.8	-0.4	28か月連続マイナス
<b>衣料品</b>	-8.1	-2.4	25か月連続マイナス
<b>身のまわり品</b>	-3.9	-0.5	29か月連続マイナス
化粧品	-1.7	-0.1	21か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-10.1	-0.6	3か月連続マイナス*
その他雑貨	-4.4	-0.3	27か月連続マイナス*
<b>雑貨</b>	-5.4	-1.0	28か月連続マイナス
家具	-5.5	-0.1	3か月連続マイナス
家電	-31.4	-0.2	3か月ぶりマイナス
その他家庭用品	7.7	0.3	2か月連続プラス
<b>家庭用品</b>	-0.6	0.0	6か月ぶりマイナス
生鮮食品	-2.3	-0.1	2か月ぶりマイナス*
菓子	-2.9	-0.2	4か月連続マイナス*
惣菜	-2.9	-0.2	29か月連続マイナス*
その他食料品	0.6	0.0	2か月連続プラス*
<b>食料品</b>	-1.7	-0.4	23か月連続マイナス
<b>食堂喫茶</b>	-10.1	-0.4	22か月連続マイナス
<b>サービス</b>	29.1	0.5	5か月連続プラス
<b>その他</b>	29.5	0.8	5か月連続プラス
<b>商品券</b>	52.2	1.6	13か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田・佐藤まで

TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>